

アダム先生は、「ナチュラルアプローチ」という方法で英語を指導しています。

「ナチュラルアプローチ」とは、母国語を取得したときと同じように（または近い形で）自然に第二言語も習得させる教授法です。

日本人が日本語を覚えたとき、周りの人達が話す言葉を多く聞いて、やがて少しずつ話せるようになったのと同じで（まず「聞く」そして「話す」）、話せるようになるためにはまず「正しい英語をたくさん聞く」ことから始める必要があります。

また、言葉に対する抵抗感を持たないように、「話す」ことを早くからあまり強制しないで話したくなるのをできるだけ待ちます。

実際の授業では、興味と集中力が持続するように（赤ちゃんが育つように何年も待つわけにはいかず、ある程度短い期間で習得できるように）、生徒の関心材料を使ってできるだけ楽しく教えています。

授業において、先生が気をつけているのは以下の点です。

(1)常に自然な英語を話す。

ゆっくりしゃべったりせず、ネイティブなスピードで話す。もちろん正しい発音です。

(2)コミュニケーションのテーマは、できるだけ生徒が関心を持つ材料を使用する。

（子ども英語クラスではアルクの教材）+ 興味のあるものを年齢別に把握し、それに適した内容を準備しています。

(3)生徒が話したくなるまで待つ、あまり話すことを強制しない。

生徒の理解力と集中力を見極めたうえで、簡単な質問をすることで話すきっかけを作っています。

(4)コミュニケーションを妨げない程度の間違いは訂正しない。

むしろ、教師の正しい英語や教材を多く聞かせることによって、自分の力で気付けるように導いています。

長所

- ・自然な形で習得できるため、会話の際に応用を利かせられる。
- ・機械的に覚えたものではなく、体感的に習得できることで忘れにくい（体が覚えている）。
- ・余計な知識があまり無い年齢には抜群の効果がある（幼児期の児童に最適な教授法である）。
- ・ある程度聞く力がついてくると、テレビや映画、音楽といったソースから流れる英語も聞くことが出来るようになり、授業以外のところで自然とボキャブラリーが増えていく事が期待できる。

当教室での現状と改善点

・先生の側に優れた英語能力が要求されるためネイティブスピーカーであるアダム先生がこの「ナチュラルアプローチ」で教え、必要に応じてミチコ先生が理解度をチェックしたり学習アドバイスをしたりしています。

・英会話のレッスンの中では話すことを強制はしませんが、適切な言い方などのアドバイスは必要に応じてレッスンで取り入れています。

・様々な知識を持つ人ほど伸びが遅くなるのが懸念される（年を取るほど不利になるという可能性がある）ため、大人の方にはあまりお勧めしていませんが、仕事で英語を必要とされている方や海外旅行、ワーキングホリデー、海外赴任など目的がある方には合わせてレッスンの内容をアレンジしています。

・聞く力や集中力に個人差があり、同じようにレッスンを受けていても伸びに差が出てくるため、必要に応じてミチコ先生が理解度をチェックしたりクラス編成を変えたりしています。

・出来るだけ長い時間で継続させなければなかなか耳が慣れない。←自然と聞きとる力が伸びるように、またボキャブラリーが増えていくように、レッスン以外のところ（ご家庭など普段の生活の中）でも、テレビや映画、音楽といったソースから流れる英語を聞く機会を増やすように取り組んで頂けると相乗効果も期待でき、英語運用能力が大幅に上がります。